

ウスヒラタケ

野外栽培マニュアル



ウスヒラタケは、ヒラタケと比較して発生温度の幅が広く、比較的高温の条件下でも収穫が可能です。そこで、三重県では大型で、日持ちの良い品種を選抜し、栽培マニュアルを作成しました。寒冷紗掛けしたほだ場などの野外簡易施設において、夏季・冬季を除き、栽培が可能です。



ウスヒラタケ野外栽培マニュアル

2018年3月発行

編集・発行：三重県林業研究所

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1

TEL 059-262-0110 FAX 059-262-0960

E-mail: ringi@pref.mie.jp

<http://www.pref.mie.lg.jp/ringi/hp/index.htm>



三重県林業研究所

◆ ウスヒラタケ栽培工程(野外袋栽培) ◆

培地作製

袋詰め

殺菌

放冷・接種

1日

1日



広葉樹オガ粉と米ぬか等の栄養体を、容積比で4:1の割合で混合し含水率を62%前後に調整します。

ポリプロピレン製の袋に培地を2.5〜3.0kg程度詰めます。

培地内の温度を118℃以上で1時間程度維持し、培地内の害菌を殺菌します。

クリーンな条件下で1晩放冷した後ウスヒラタケ種菌を接種します。

培養

発生処理

発生

収穫・出荷

1〜2ヶ月

1日

1日



温度20〜26℃、湿度70%程度の条件下で1〜2カ月程度培養します。

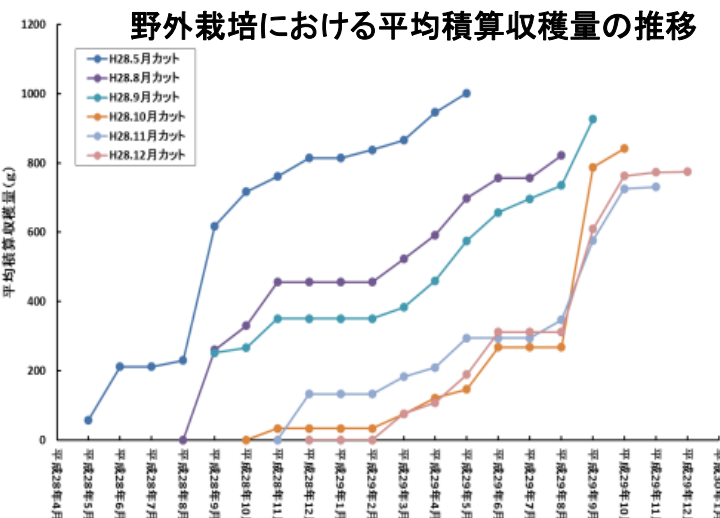
培養が完了した袋の側面に切れ目を入れ、発生室へ移動します。

菌床が乾かない程度に散水し、発生を促します。(研究所の調査では朝、夕の2回10分間の自動散水を行いました。)

きのこの傘が開ききる前に収穫しパック詰めします。自然発生のため、収穫量は季節の変化に大きく左右されますが、長期間栽培を行うと、1菌床当たり合計で700gを超える収穫も可能です。

野外栽培における平均積算収穫量の推移

野外における発生処理時期別の収穫量(一年間の積算)



発生処理時期	供試数(ロス数)	平均収穫量±標準偏差(g)	品種
5月中旬	4(0)	1,001.5±41.4	M系統
8月中旬	4(0)	822.0±226.4	M系統
9月中旬	4(0)	927.0±52.8	M系統
10月中旬	4(1)	841.3±168.6	M系統
11月中旬	4(0)	731.0±123.7	M系統
12月中旬	4(0)	775.0±152.3	M系統

品種によって発生状況が異なりますが、ウスヒラタケの野外栽培は季節の影響により、収穫量が変動します。秋の9月が発生のピークとなり、逆に夏の7〜8月、冬の1〜2月は、ほぼ子実体形成が認められませんでした。以上のことから、野外栽培を行う際は9月の収穫を中心に計画を立案する必要があります。